

2019年度 ジュニアリーダースクール報告書



日 時 令和元年7月25日(木)～7月27日(土)
場 所 山口県スポーツ交流村(光市)
参加者数 37名

山口県スポーツ少年団

開校式

ジュニアリーダー代表宣言を平生剣道スポーツ少年団の寺田花那さんが元気よく宣言しました。



熱中症勉強会

熱中症の判断と応急処置

『これって熱中症？ 判断基準』

気温や湿度が高い環境のなかで、立ちくらみ、筋肉のこむら返り、体に力が入らない、ぐったりする、呼びかけへの反応がおかしい、けいれんがある、まっすぐに走れない・歩けない、体が熱いなどの症状がみられたときには、すぐに熱中症が疑われます。

なかでも、高体温、汗をかいていなくて触ると熱い、ズキンズキンとする頭痛、めまいや吐き気、意識障害がある場合は、重症です。

交歓活動「歌・ゲーム」

みどりの朝風、だいこん抜きゲームをして交流を深めました。



『熱中症の応急処置』

熱中症が疑われる場合は、次のような応急処置を行いましょう。

1. 涼しい環境に移す

風通しの良い日陰や、クーラーが効いている室内に

2. 脱衣と冷却

衣類を脱がせて、体内の熱を外に出します。さらに、露出させた皮膚に水をかけ、うちわや扇風機などで仰いたり、氷嚢で首やわきの下、太ももの付け根を冷やし、体温を下げます。

3. 水分と塩分を補給する

冷たい水、特に塩分も同時に補える経口補水液やスポーツ飲料などを。ただし、意識障害がある場合は水分が気道に流れ込む可能性があります。また、吐き気や嘔吐の症状がある場合には、すでに胃腸の動きが鈍っていると考えられるので、口から水分を入れることは避けましょう。



学習「リーダーの役割」

『溶接ウォークのルール』

- ①グループで川を渡る
- ②となりの人と足が離れてはいけない
- ③足が離れなければ石が浮かび上がる

活動を振り返って

『足りなかったことは、どんなことですか』

- ・自分の意見をうまく伝えなかった
- ・相手に合わせることができなかった
- ・もっと声を掛け合えばよかった

『足りなかったことを改善していくためには、どうすればよいか』

- ・意見を自分から出していく
- ・周りのことをよく見る



海のスポーツ体験

デンギー・バナナ・サップ体験



仲間とのふれあい活動

人間知恵の輪・宅配便・どかんじゃんけん



学習「スポーツ少年団とは」

スポーツ少年団の理念

- ・一人でも多くの青少年にスポーツの遊びを提供する
- ・スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる
- ・スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する



スポーツ少年団の定義「子どもたちが、自由時間に、地域で、スポーツを中心に、多様に、仲間でする」ということや、東京オリンピックに合わせ、1962年6月23日に創立されてこと、スポーツ少年団はメンバーシップ制をとっていることなど、スポーツ少年団ならではの組織や事業について学びました。

学習「グループテーマディスカッション」

『スポーツをやっている「楽しい」と感じるのは、どんなとき』

- ・試合で勝ったとき
- ・いいプレーができたとき
- ・点を取ってみんなで喜んだとき
- ・試合で点を決めたとき



『みんなでスポーツを楽しむために、所属する団のリーダーとしてどんな行動をすればよいか』

- ・みんなのお手本になる
- ・周りをみる
- ・相手に合った行動をする



学習「良いリーダーになるためには」

望まれるリーダーになるためには、グループをまとめていく力・目標に向ける力を身につけることが重要です。なにより、今の自分に何が身についていて、何が足りないのかを知り、より良いリーダーになるために学び続けることが大切なのです。



閉講式



感想

ふれ合い活動で仲間と協力して作戦を練り、他の人と支え合って活動することを学びました。「こうしたらいいよ」と自分の体験をもとに、アドバイスをしてくれました。チームメイトが困っているときは、積極的に言葉をかけるようにしたいです。

4班 高橋 駿太

この活動のおかげで、班の仲間の楽しさ、大切さ、一体感。そうやってグループが育ち、私も育てられました。小学校卒業後もスポーツ少年団を続け、みんなを笑顔にできる私の理想のリーダーになれるよう活動していきたいです。

2班 村谷 美海

グループテーマディスカッションの学習で「仲間の向きをそろえる」という言葉が一番心に残りました。話を聞くと向きをそろえる。目標に向かい向きをそろえる。向きをそろえるという言葉にはいろいろな意味があると思います。簡単ではないけど、みんなの向きがそろうように頑張りたいです。

2班 鈴政 陽太

スポーツ少年団とはの学習で、活動をしていく中でたくさんの人の協力があるからこそ活動ができるということに改めて感じました。指導者、リーダー、育成母集団協力してくれている全ての人に感謝の気持ちを忘れずに活動していきたいです。

3班 有吉 楓華

指導者として初めて参加させていただきました。子どもの力は無限大で、可能性をたくさん秘めているといつも思っています。

5・6年生という中学校へのステップ前は特に成長期として大切であり、あたたかく見守っていくことの大切さをまたあらたに感じました。

指導者 廣川 恵子

ぼくが所属している平生合気道では、お楽しみ会などでACPを行っています。幼児から大人までみんなで一緒に楽しく活動ができます。今回、仲間とのふれあい活動などで学んだACPを是非それぞれの単位団でやってみてください。また、今回学んだことを今後のスポーツ少年団活動に活かしてください。僕も今回学んだことを、今後のリーダー会活動に活かしていきたいです。

リーダー 河藤 大和

「ジュニアリーダースクールに参加されたみなさんへ」

スクールでは、自主的・自発的活動を基本としながら、以下の活動を実施しました。

①学習活動 「スポーツ少年団とは」「リーダーの役割」「よいリーダーになるために」「グループテーマディスカッション」「熱中症予防」

②団員相互の交流 「ふれあい活動(ACP)」「歌・つどい」「情報交換」

③スポーツ交流村の特性を生かした活動 「海のスポーツ体験」

ジュニアリーダースクールでの経験を基にして、それぞれの単位団で信頼されるリーダーとして活躍することを期待しています。

